平成27年度広島県広報コンクール

広報はつかいちが 2部門で全国コンクールへ

平成27年度広報コンクールで「広報はつかいち」3月号が広報紙市の部で、9月号が組み写真の部で最優秀賞に選ばれました。2部門での受賞は3年連続。

3月号は「さよならを言う前に」と題し、玖島・浅原小学校の閉校を特集。また、9月号はけん玉ワールドカップの様子を13枚の写真で表現しました。今後も皆さんに親しまれ、必要とされる広報紙を目指していきます。

今回受賞した2点は、広島県の代表として日本広報協会が主催する全国広報コンクールに推薦されます。

農業担い手育成研修会

廿日市の特色を生かした産地形成を目指して

2月2日、農業担い手育成研修会がさくらぴあで開催されました。

会では、山形県鶴岡市で地元食材を生かした料理を提供するレストラン「アル・ケッチァーノ」オーナーシェフの奥田政行さんが講演。パネルディスカッションでは「食と農をつなぐ仕組みを考える」と題し、地元農業者や飲食関係者などが意見を交わし、廿日市の特色を生かした産地形成を考える1日となりました。

講演を行う奥田さん。「食に携わる人が、地元の生産者や土地のことを知り、生かしていくことが大切です」と話しました。

市内の学校で選挙出前講座

将来を担う有権者、投票の大切さを知る

1月15日に宮島工業高等学校の定時制で、26日と2月2日に廿日市特別支援学校で、県と市の選挙管理委員会事務局の職員が選挙に関する出前講座を行いました。

法改正によって若者の意見が政治に反映されやすくなることなど、選挙や投票の大切さを説明。

それぞれ講義の後には、実際に使用している記載台や投票箱、投票用紙などを使って模擬投票も行いました。

模擬投票の様子。講義では、「在学中でも18歳になれば投票に行けるのか」などの質問もあり、選挙権が大切な権利だと感じたようでした。

写真1＿（左から）県立宮島工業高等学校の濱田賢人さん、山本拓也さん、北原美幸さん。**写真**2＿ファミリアクリエイト代表の川本真督さん。**写真**3＿まっちゃんの野菜お届け隊やＮＰＯ法人「若者支援ネットはつかいち」代表の松本緋沙恵さん。**写真**4＿大野中学校生徒会執行部の下川敬弘さん。**写真**5＿湯﨑知事。

湯﨑英彦の地域の宝チャレンジ・トーク

地域で活動を進める 4組が活動を発表

地域で活躍する人と湯﨑知事が意見交換を行う「地域の宝チャレンジ・トーク」が1月30日、大野学園で行われました。

この日知事と意見交換を行ったのは4組6人。「私の挑戦」と題し、会場に集まった人と知事を前に事例発表を行いました。意見交換後、湯﨑知事は「今回発表されたのは、地域の若い世代。地域のために汗を流し、人のために貢献する姿を見て、自分にできることから活動を始めることの大切さを感じました」と話しました。

フラワーバレンタイン

花束に気持ちを乗せて 大切なあの人へ

日本ではチョコレートを贈る日として知られるバレンタイン・デー。欧米では男性から女性に花を贈る日（フラワーバレンタイン）として定着しています。

広島県内でも有数のバラの生産地として知られる廿日市。廿日市バラ推進協議会の皆さんによって、2月8日から14日まで、さくらぴあ入口の市民ホールに色とりどりの切りバラ60品種が飾られ、訪れる人の目を楽しませました。

廿日市バラ推進協議会の徳永和宏さんは、「ここにバラを飾るのも3年目。産地として誇れる活動を今後も続けたいです」と話してくれました。

My Town Topics —まちのわだい— まちの旬な話題を提供します

新成人と市長の市政懇談会

このまちの未来を 新成人と共に考える

今年度成人を迎えた4人と市長の市政懇談会が、2月7日に廿日市市役所で行われました。

懇談会のテーマは「私の住む地域の10年後のあるべき姿、進む方向性。そのためになすべきことは何か」。参加者からはスポーツや地域の交通、観光などに関する提案が出されました。また、フリートークでも市長と意見が交わされ、まちの未来を担う新成人と廿日市の将来を考えました。

参加した新成人の皆さんと眞野市長（前列）。市長は「地域の未来を担う皆さんから貴重な意見を聞くことができました」と話しました。

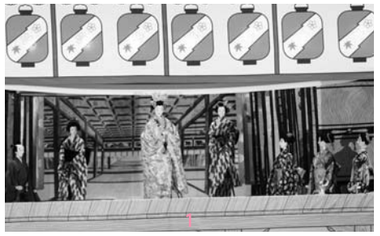


写真1＿首や手などが細かく動く人形たち。**写真**2＿物語を支える語り太夫と三味線太夫。**写真**3＿半世紀以上携わる香川文信さん。人形の頭（かしら）が明治時代から修繕し使用していることを舞台裏見学で紹介。

説教源氏節人形芝居公演

130年受け継がれる 笑いあふれる人形芝居

1月31日、さくらぴあ小ホールで「眺楽座」による説教源氏節人形芝居の公演がありました。明治時代から伝承されている説教源氏節人形芝居は「でこ」と呼ばれる人形を操り、話を展開します。

この日、3年2カ月の練習を経て、初舞台を迎えた三味線担当の竹内夢子さん。「最初は頭が真っ白になりました。それでも日頃の楽しい練習の成果を出せてよかったです」と話してくれました。

また、後半には20種類以上もの襖絵をおはやしに合わせて変える、眺楽座独自の舞台装置「八反返し」が披露され、客席からは歓声や拍手が湧き上がりました。

広島市佐伯区から来場した平稲美智子さんは、「良い意味で予想と違った人形芝居だった。今後も残していってほしいです」と笑顔で話してくれました。

ＤＶ防止啓発講座

あなたの周りに潜む DVのサイン

1月16日、廿日市市役所で広島大学ハラスメント相談室准教授の北仲千里さんによる「ＤＶ防止啓発講座～あなたの周りに潜むＤＶのサイン～」を開催。ＤＶの特徴やデートＤＶなどに関して、ビデオを使って分かりやすく説明しました。

全国の配偶者暴力相談支援センターで受ける相談の件数は102,963（平成26年度）にのぼり、年々増加しています。

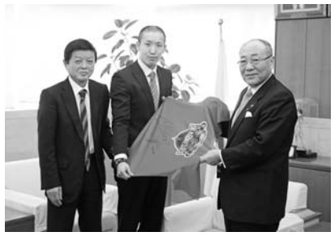
北仲さんは「家族や恋愛関係は相手への期待や憎み、相手を自分の思い通りにしたがるという、虐待の基盤を作りやすくします」と話しました。

広島ドラゴンフライズ市長表敬訪問

廿日市での初開催を前に 市長を訪問

現在国内のバスケットボールリーグ、ＮＢＬで活躍する「広島ドラゴンフライズ」。平成25年に設立され、チーム名は宮島地域に生息するミヤジマトンボに由来します。

2月27日、28日に廿日市市（サンチェリー）で初めて開催された試合に先立ち、広島ドラゴンフライズ代表取締役の岸房康行さんとキャプテンの平尾充庸さんが、2月8日に市長を訪問しました。


平尾選手からユニフォームを受け取る眞野市長。市長は「市内でバスケットボールをする人たちの力になっていってほしい」と話しました。

原亥の子舞子連中神楽団

廿日市が誇る伝統芸能を マレーシアへ

3月26日から31日に原亥の子舞子連中神楽団が、マレーシアのサラワク文化村など3カ所で神楽を披露します。

近づく出発の日に向け、毎週金曜日に原伝統芸能伝承館で練習。小学校6年生の井唯捺綺さんを始め、小・中学生9人の団員たちは、「指導してくれる皆さんは厳しいけれど、やめようと思ったことは1度もない」と口をそろえ力強く話してくれました。

代表の川本恒雄さんは「見るたびにきれいに舞うことができるようになっている。子どもたちの成長がやりがいです」と笑みを浮かべていました。